

ナンバ 日冷工GLフロンキーパーに追い風 SDGsで社内改革に専心

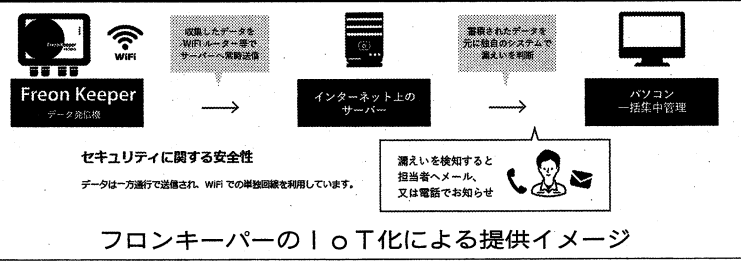


難波 昇一 会長



難波 俊輔 社長

2012年に独自開発したフロン漏えい検知システム・Freon Keeper(以下「フロンキーパー」)が凡そ10年の月日を経て改めて注目される素地が整いつつあるとナンバ(本社・新潟県長岡市三島新保633-1)の難波俊輔社長は顔をほころぼせる。



フロンキーパーのIoT化による提供イメージ

元来、ナンバは地場有数の総合設備工事業者として確固たるポジションを構築しているが、自社の事業の根幹でもある冷熱機器の血液である冷媒の漏えい問題には早期より着目して難波昇一会長の手の元でフロンキーパーは開発された。

難波俊輔社長は「2001年の特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収・破壊法)の制定から今日の改正フロン排出抑制法まで至る過程で業界はフロンに対する知見と共に漏えい対策に万全を期し臨んできたが、未だ回収量その喧伝に努めてきた



ナンバが取り組む新潟県カーボン・オフセットPR用パンフレット

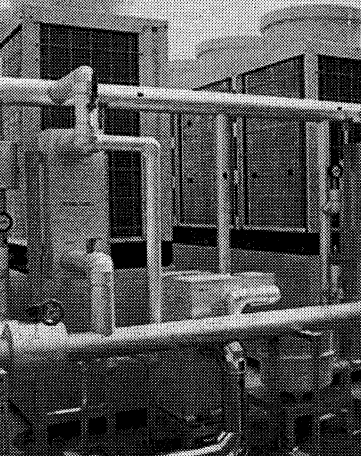
が、ようやくこうした日冷工のガイドラインの制定で市民権を得られるもの期待している。加えて環境省が打ち出したIoTを活用したフロン類漏えい検知技術等による省CO₂効果等評価「検証事業」も新たに1億円の要求額が提示されており、上流から川下に至る呼び水となることは確かだ。さらに先の菅政権が打ち出したデジタル化も大いに商機と捉え、今後もフロンキーパーの浸透に注力していく」とした。

れに伴う対応に終始したことで、今期分を先食いする形で前年に消化したというところも大きい。また食品加工関係の工場案件などが少なかつたことも起因した。但し11月以降の来期については一定の見通しが立っており、設備・機械工事を含めて挽回に臨む。一方でフロンキーパーに対する動きの中で新潟県が取り組むカーボン・オフセットへの取り組みを開始した。県内の森林整備や環境保全活動を通じて地球温暖化対策に貢献していく。具体的にはフロンキーパー1台の売上に付き1000円を寄付によるクレジット購入といった形でオフセットを行う。昨年4月から今年3月までの販売台数は1355台で13万5千円、CO₂換算では約9トの実績となった。今年は上半期の9月までに111台を販売しており、年度内に200台を目指している」とし環境貢献をさらに進める考えを示した。

新冷工業 シナジー生み「共創」フロアヒーティングシステムも協業

2019年6月3日に新潟市内に本社を置き、1950年(昭和25年)に創業した新冷工業(社長=難波俊輔氏、本社=新潟市東区江南一丁目2-12)と資本業務提携を遂げた「冷媒漏えい量の調査結果」において、毎日計測及び診断を行う遠隔監視を含む常時監視システムが普及することにより、使用時漏えいの早期発見に繋がると思われると定義されたことだ。

修などナンバの動きと同様に活発な需要獲得を行って、前年比3割増といっただけで実現させた。一転、今期については昇格させ、技術サポート課員に据え、業務と施工管理の橋渡し役を担う。この両社における相乗効果を高めているのがナンバから工事部長を新設し、責任ある立場での責任を担うことになったことだ。

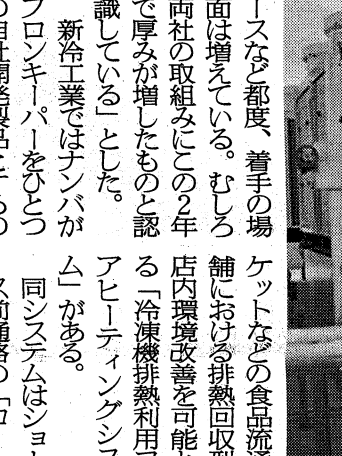


フロアヒーティングイメージ図

「当初は両社で取り組み事業の創出を描いてきたが、それぞれの強みを活かした市場での戦略が功を奏するケースもある。一方これまで新冷工業が断っていた案件などナンバが乗り出すことで、互いの領域で最大限の効率を追求しつつも、共に市場を創出していくという考えだ。

現在、進化を遂げたフロンキーパーは、まさにIoT技術を駆使した早期漏えい検知システムであり、ガイドラインの従来から地盤としてきたとされた。一方、既存の新冷工業の効率を追求しつつも、

「当初は両社で取り組み事業の創出を描いてきたが、それぞれの強みを活かした市場での戦略が功を奏するケースもある。一方これまで新冷工業が断っていた案件などナンバが乗り出すことで、互いの領域で最大限の効率を追求しつつも、



屋外熱交換器設置例

「当初は両社で取り組み事業の創出を描いてきたが、それぞれの強みを活かした市場での戦略が功を奏するケースもある。一方これまで新冷工業が断っていた案件などナンバが乗り出すことで、互いの領域で最大限の効率を追求しつつも、

新潟地区 空調・冷熱市場特集

年、日刊工業新聞が主催する第23回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞において環境大臣賞を受賞した。第12回の同賞「優秀賞」に次いで2度目の受賞となったほか、同年の一般社団法人日本冷凍空調設備工業連合会(通称「日設備」)が主催し、一般財団法人省エネルギーセンターが協力する第37回優良省エネルギー設備顕彰の運輸・保守管理部門で優秀賞を受賞するなどフロンキーパーの露出度は年を追うことに拡大基調にある。

「当初は両社で取り組み事業の創出を描いてきたが、それぞれの強みを活かした市場での戦略が功を奏するケースもある。一方これまで新冷工業が断っていた案件などナンバが乗り出すことで、互いの領域で最大限の効率を追求しつつも、